

創立100周年 飛躍年にしよう!

母校の創立100周年を来年の秋に控え

各界でご活躍の卒業生に学生時代の思い出などを綴っていただき
創立100周年の機運を高めていきたいと思います
往時を懐かしく思い出し、またこれからの住高の飛躍に思いを馳せ
創立100周年を迎えましょう!

● 私の中のオリンピックと万博 山内 陸平 (高9期)

なにかと物議を醸したオリンピックも終わり、続いて大阪では万博があるという。57年前にも東京オリンピックに続いて1970年には大阪で万博が開催された。偶然だとしても不思議な巡り合わせである。

先日NHKの「映像の世紀」を見ていて、突然1964年の開会式の前日に皇居前で行われた集火式の映像が流れ、住高時代の記憶がよみがえった。実はこの時の聖火台を黒子でデザインしたのだが、住高時代の同級生で岩谷産業の仕事をしていた今は亡き小山君から「やってくれ」と頼まれたのだ。

そのあとJETROの留学生としてアメリカで学び1967年の3月末に帰国。羽田から自宅の母に電話をすると、「明日から万博協会で働くことになっている」との声。帰阪するなり、地下鉄の本町駅に隣接していたビルに行く。創設されたデザイン課に配属されたが課員は私だけ。知る人もなく右往左往する数日後、廊下で「山内やんか」と声をかけられたのが住高の同級生寺田君。一気に気分が晴れ、「万博とはなにか」を学びながら会場のデザインに関わった。その後も住高の同級生には数多くの場面で教えられ、助けてもらったし、今もよいお付き合いをいただいている。

やまうち りくへい：京都工芸繊維大学名誉教授
京都工芸繊維大学 意匠工芸学科 卒。イリノイ工科大学大学院で学び、ジョージ・ネルソン事務所、ハーマンミラー社のプロジェクトに参加。帰国後、日本万国博覧会協会、高島屋設計部を経て1976年から京都工芸繊維大でデザインの研究・教育と幅広くデザイン活動を行う。国内外で受賞多数。最近作は近畿日本鉄道の特急車両「しまかぜ」



● 青い空と演劇部 みや なおこ (高32期)

今でも思い出すのは、演劇部の部室があった屋上です。ひとりでよく、部室があった屋上の真ん中にベンチを置いて、寝転んで空を眺めていました。周りに遮るものが何にもない、大きな大きな青空でした。この屋上で発声練習したり、芝居のお稽古したり。

屋上から下を見ると校門が見え、グラウンドや運動部の部室が見えました。芝居は真っ暗な劇場の中で上演されるので、この青空はバランスを取ってくれてたのかも…と思います。プロとして俳優活動するようになってからも、一本舞台が終わると、この青空を求めて旅によく出ましたが、原点はここにあったんだと思います。

住高演劇部はいま思い返すと、とんがったクラブでしたね。女性の先輩はみんな美しく、ファンクラブのようなものもありました。

高校で初めて出演した芝居が、別役 実の『マッチ売りの少女』。若干16歳で妻の役。いきなりの不条理劇…後にも先にも別役を演じたのはこれだけです。

お客さんが数人の講堂で、上演中にヤジを飛ばされて睨み返したのも楽しい思い出です。

みや なおこ：俳優
もと劇団 そとばこまの看板女優として、100本以上の大小劇場の様々な舞台に立つ。NHK朝ドラ『いちばん太鼓』で主人公の初恋・松子役で本格ドラマデビュー。『探偵ナイトスクープ』『京都地検の女』など多くのドラマやバラエティに出演。2014年度 文化庁芸術祭賞優秀賞・個人受賞。2021年度 読売演劇大賞・上半期女優賞。



● 住高時代の思い出 運輸 賢治 (高24期)

高校生活を思い出すと、様々な光景が目には浮かびます。北畠の駅から校門に至る坂道。右手にはテニスコートとプール。その先には野球場。手前で校門をくぐり、目の前の校舎を入るとすぐ事務室、入り口には遅刻の届け出用紙があり、よくお世話になりました。校舎と校舎の間には中庭が広がり、夏休みには、吹き抜ける涼風を楽しみながら友人と取り留めのない話をしたものです。校舎を抜けると、運動場が大きく広がり、左手には、クラブハウス、音楽教室など。その前にはシュート板がありました。僕の高校生活は、まさに部活中心に回っていました。所属は「住高サッカー部」。昼前には早弁、早飯。4時間目を抜けては、食堂に行きました。お気に入り入りはカレーそば！夏休みは同級生たちと毎日サッカーを楽しんだものです。放課後を待ちわびて、夕方遅くまで、サッカーそしてサッカー。練習を終え、シャワーを浴び、駅前の牛乳屋さんでチェリオを飲んでいました。高校生活を振り返れば、語り尽くせませんが、精神面、肉体面ともに今の自分が在るのは、没頭した部活や得がたい様々な友人たち、先輩・後輩のお陰だと日々感謝している次第です。

はすわ けんじ：株式会社 大林組 代表取締役社長
1977年 大阪大学 工学部土木工学科 卒業後、(株)大林組入社。2010年 執行役員、2012年 常務執行役員、2015年 取締役常務執行役員、2016年 取締役専務執行役員を経て2018年3月より現職。主な兼職として、(一社)日本建設業連合会にて2018年4月より副会長、2021年4月より建築本部長、2021年6月まで(一社)海外建設業協会 会長。



● ローアウト精神 近藤 太一 (高44期)

自主、自律、自由な校風に憧れ入学した住吉高校。思い出すのはキラキラとした思い出ばかりです。

部活は大阪の高校では珍しかったボート部。漕ぎ手が息を合わせ水面を力強く漕ぎ進む爽快感に夢中になりました。水上競技であるボート部の練習は、平日は校内でウエイトトレーニングや万代池でのランニング、上町台地の高低差を利用した坂道ダッシュなど。週末や休み期間は艇庫のある浜寺運河まで往復30キロを自転車で通いそれからボートの乗船練習に明け暮れました。良い仲間達に恵まれ、心も体も成長できた青春の始まりだったと思います。

「ローアウト精神」というボート用語があります。ローアウトとは全エネルギーを使い果たして倒れるまで漕ぎ抜くことを指し、後からあの時もうひと頑張りしていたらと悔まないよう全力を尽くす事という意味です。

高校卒業後、美術や伝統工芸の世界に飛び込み、現在は京都で桶職人をやっています。厳しい修業時代を乗り越え、常に全力で仕事に打ち込んでいるのはあの時住高ボート部で培った「ローアウト精神」のおかげなのかなと思っています。

こんどう たいち：桶職人、桶屋 近藤 主宰
京都精華大学 美術学部 造形学科 立体造形専攻 卒。
京都精華大学大学院 美術研究科 立体造形専攻 修了。
木工芸家 中川清司(重要無形文化財 保持者)に師事。
職人として、桶、指物の技術を学ぶ。
年季を経て独立。京都市北区紫野に工房「桶屋 近藤」をひらく。
「京指物」伝統工芸士の認定を受ける。

